

平成 26(2014)年度

大阪市指定の文化財

(名称)	(員数)	(部門／種別)	(所在地)
近代大阪を彩る都市芸術 (彫刻)	2 件	有形文化財 美術工芸品／彫刻	(中央区、北区)
三津寺仏像群	一括(12 軀)	有形文化財 美術工芸品／彫刻	(中央区 三津寺)
長宝寺仏像群	一括 (4 軀)	有形文化財 美術工芸品／彫刻	(平野区 長宝寺)
絹本著色観経説法図	1 幅	有形文化財 美術工芸品／絵画	(平野区 長宝寺)
絹本著色両界曼荼羅図	2 幅	有形文化財 美術工芸品／絵画	(平野区 長宝寺)
紙本墨書六字名号 天文 13 年蓮淳裏書	1 幅	有形文化財 歴史資料	(東住吉区 雲茎寺)
紙本墨書六字名号 天正 13 年顕如裏書	1 幅	有形文化財 歴史資料	(北区 明福寺)
大阪市立中央図書館所蔵の水帳群	一括 (184 点)	有形文化財 歴史資料	(西区 大阪市立中央図書館)
『大阪市史』関係の稿本群	一括 (217 点)	有形文化財 歴史資料	(西区 大阪市史編纂所他)
昭和六年大阪城天守閣復興に係わる設計原図等関係資料	一括 (147 点)	有形文化財 歴史資料	(中央区 大阪城天守閣)
豊臣氏大坂城本丸跡出土資料	一括(89 点)	有形文化財 考古資料	(中央区出土 大阪市)
豊臣期金箔押龍面鯨瓦	1 点	有形文化財 考古資料	(中央区出土 大阪市)
豊臣期金箔押桐文方形飾瓦	1 点	有形文化財 考古資料	(中央区出土 大阪歴史博物館)
豊臣期金箔押菊文大飾瓦	1 点	有形文化財 考古資料	(中央区出土 大阪城天守閣)
豊臣期金箔押沢瀉文方形飾瓦	1 点	有形文化財 考古資料	(中央区出土 大阪市)
慶心比丘尼蘇生譚関係史料	一括 (8 点)	有形民俗文化財	(平野区 長宝寺)
長宝寺の閻魔信仰習俗		無形民俗文化財	(平野区 長宝寺)
勝鬘院の愛染まつり		無形民俗文化財	(天王寺区 勝鬘院)

大阪市教育委員会

大阪市指定文化財の概要や画像は、大阪市ホームページでご覧いただけます。

大阪市総合トップ>大阪市イベント・観光>文化>[大阪市指定文化財](#)

きんだいおおさか いろど としげいじゆつ ちょうこく
近代大阪を彩る都市芸術（彫刻）（大正時代）
なにわばし ぞう ほんかん わし しょうじょ ぞう
難波橋「ライオン像」、ダイビル本館「鷺と少女の像」

難波橋「ライオン像」

〔所有者〕大阪市（建設局）
〔所在地〕中央区北浜1丁目、2丁目
北区西天満1丁目

〔分野〕有形文化財
〔部門／種別〕美術工芸品／彫刻
〔数量〕4点（一括）

ダイビル本館「鷺と少女の像」

〔所有者〕ダイビル株式会社
〔所在地〕北区中之島3丁目
〔分野〕有形文化財
〔部門／種別〕美術工芸品／彫刻
〔数量〕1点

市民が美術作品に親しむことができるようになるのは、概ね20世紀になってからである。市民を対象とした美術館がつくられ、また、建築や橋などにも装飾や意匠に工夫を凝らしたものが見られるようになった。近代化をけん引するモダン都市であった大阪市でも都市美を追求する動きは顕著であり、建物や橋に彫刻を飾り、市民に親しまれるとともに近代大阪の都市景観を形作ってきた。



大正4年（1915）竣工の難波橋は、「ライオン橋」の愛称で市民に親しまれている。橋の南北両詰の東西を飾る4点のライオン像は、あまおかきんいち天岡均一（1875～1924）の作で、第6代大阪市長 池上四郎の依頼でつくられた。

中之島西部地区の景観を代表する建築であった、旧ダイビルの1階正面玄関上部に飾られていた「鷺と少女の像」は、大正14年（1925）に制作された。おおくにていぞう大國貞蔵（1890～1950）の代表作で、ダイビルを象徴する像として市民に親しまれた。2013年にダイビルは建て替えられたが、この彫像は建て替え前と同じ位置に飾られている。



みつてらぶつぞうぐん
三津寺仏像群（平安時代～江戸時代）

〔所有者〕宗教法人 三津寺
〔所在地〕中央区心斎橋2丁目
〔分野〕有形文化財
〔部門／種別〕美術工芸品／彫刻
〔数量〕12軀（一括）

『撰津名所図会』ぎょうきで行基の建立とされる三津寺は、一説には御津八幡宮の深い関係があったといわれる真言宗の古刹である。大坂の陣などの戦乱で衰退したが、江戸時代の地誌によれば、その一坊と思われる大福院が守る、とある。19世紀前半に再建されたと伝える本堂の厨子内には、平安時代から江戸時代の在銘彫刻まで多岐におよぶ諸像が安置され、市内有数の仏像群となっている。（画像は「木造毘沙門天立像」）



ちょうほうじぶつぞうぐん
長宝寺仏像群（平安時代）

〔所有者〕宗教法人 長宝寺
〔所在地〕平野区平野本町3丁目
〔分野〕有形文化財
〔部門／種別〕美術工芸品／彫刻
〔数量〕4軀（一括）

長宝寺は平野郷の中に寺地を置き、坂上田村麻呂の娘 春子の創建とされる真言宗寺院である。平野郷の中心となる寺院のひとつで、平安時代の4軀の仏像を伝えており、市内有数の仏像群となっている。一木造の像が3軀、一木割剥造（いちぼくわりはぎづくり）の像が1軀であり、11～12世紀に制作年代がさかのぼる。このうち十一面観音像は、坂上広野麻呂が平野に建立した修楽寺の本尊と伝える。（画像は「木造十一面観音菩薩立像」）

